

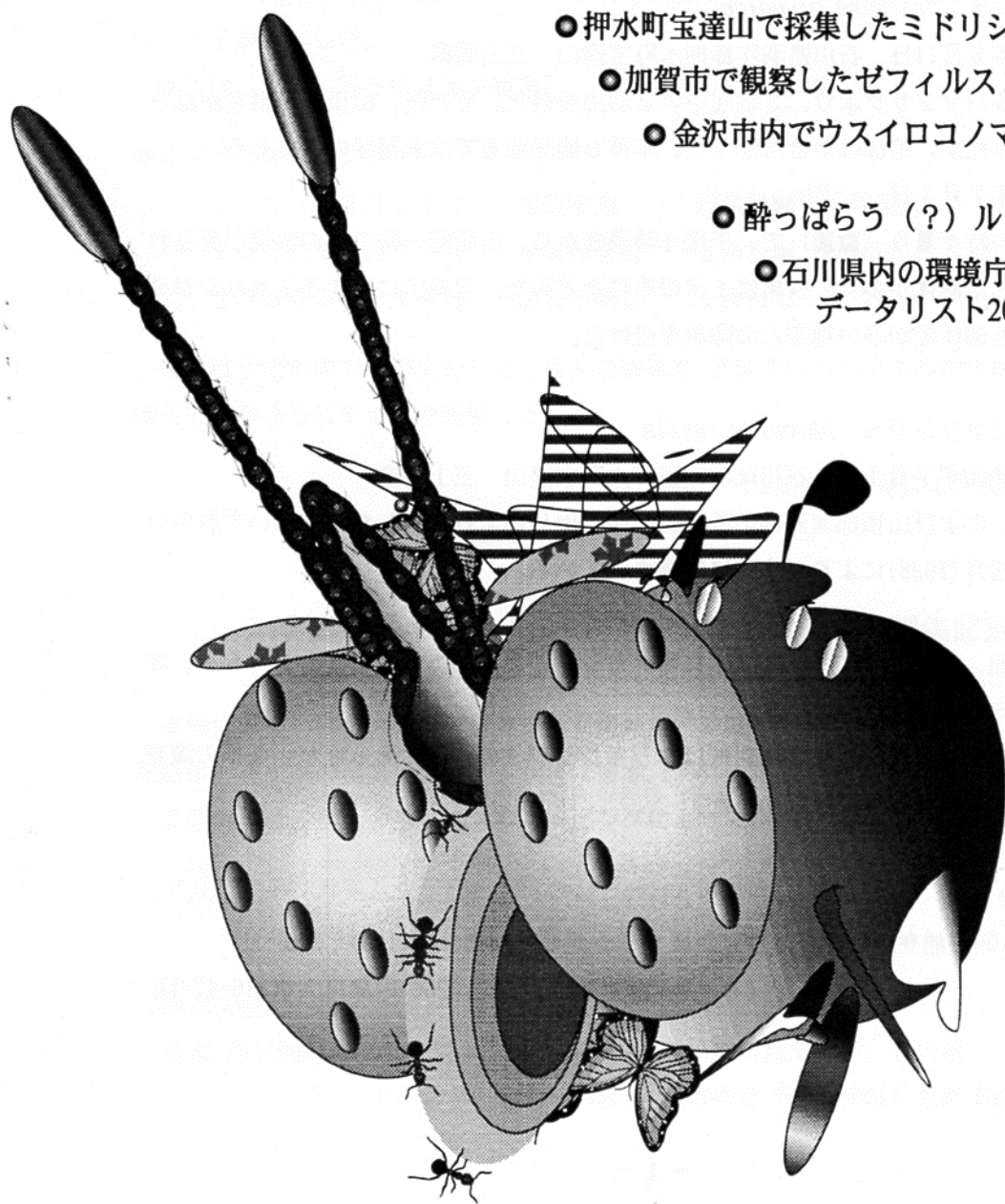
翔

百万石蝶談会

No. 145

August 2000

- 押水町宝達山で採集したミドリシジミ類
- 加賀市で観察したゼフィルス2種
- 金沢市内でウスイロコノマチョウを目撃
- 酔っぱらう(?)ルリタテハ
- 石川県内の環境庁レッド
データリスト2000掲載種



押水町宝達山で採集したミドリシジミ類

三 上 秀 彦

能登地方では記録の無い、または少ないミドリシジミ類を石川県羽咋郡押水町宝達山で以下のように採集しているので、その時の状況と併せて記録しておきたい。

◆ウラミスジシジミ *Wagimo signatus*

1 ♂ 2000年7月1日 石川県羽咋郡押水町宝達山 三上秀彦

山頂付近のミズナラを叩いていた際に飛び出した個体を採集した。シグナータ型の♂で、かなり小型であった。能登地方では未記録の種である。

◆ウラクロシジミ *Iratsume orsedice*

2 幼 2000年5月11日 石川県羽咋郡押水町宝達山 三上秀彦

山頂部のマルバマンサクより、2眠起中の2幼虫を得た。その後、山頂部一帯をかなり丹念に調べてみたが、追加はできなかった。本種も能登地方では未記録の種である。

1 ♂ 2000年7月1日

当日は、晴れ時々曇り（微風）で、午後4時過ぎから、山頂部一帯で♂の群飛が見られた。すでに傷んだ個体が多く、採集は1♂のみにとどめた。宝達山に産するミドリシジミ類中、もっとも個体数が多い種類との印象を受けた。

◆ジョウザンミドリシジミ *Favonius taxila*

2 ♂ 2 ♀ 2000年7月1日 石川県羽咋郡押水町宝達山 三上秀彦

山頂部付近、および山頂部南西部の低木帯で叩き出しにより採集した。♀はいずれもO型。本種は、松井(1998)により、すでに記録されている。

上記3種の他、7月1日には、ミズイロオナガシジミ2♂、エゾミドリシジミ5♂、オオミドリシジミ1♂1♀を得ている。

5月11日、7月1日両日とも、主目的はウラキンシジミの確認にあったが、今年の調査では、幼虫、成虫とも発見できなかった。

《 参考文献 》

松井正人(1998)能登地方でジョウザンミドリシジミを採集。翔(135):5-6.

《みかみ ひでひこ 〒920-0266 内灘町大根布6-47-1》

加賀市で観察したゼフィルス2種

松 井 正 人

石川県加賀市において、2種のゼフィルスを観察したので報告する。加賀市のゼフィルスは、これまでウラゴマダラシジミ、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ、オオミドリシジミ、ミドリシジミの5種しか知られていなかった。

◆ウラナミアカシジミ

2000年4月29日	加賀市瀬越	1 幼	松井正人
2000年6月17日	加賀市畑	1 ♂	松井正人

加賀市においては、今回初めて確認された。瀬越では幼虫調査を3回、成虫調査を2回行ったが、発見できたのはアバマキの小木にいた1幼のみであった。この1幼は、5月26日に1♀が羽化した。

畑では、小雨が降る中4頭を観察し、その中の1♂を採集した。

◆ミズイロオナガシジミ

2000年6月17日	加賀市畑	12頭目撃	松井正人
2000年6月17日	加賀市宮地	6 頭目撃	松井正人
2000年6月17日	加賀市橋立	1 頭目撃	松井正人

畑では小雨の中で飛びまわるたくさんの個体を、宮地ではアバマキの叩き出しによって、橋立ではかろうじて1頭を観察した。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

アカスジキンカメムシの能登鉢伏山における採集記録

井 村 正 行

本種は、美しいカメムシで目立つにも関わらず、以外にも記録が少ない。能登における記録は、石川県の昆虫キンカメムシ科（徳本, 1998）に見あたらなかったので報告する。

この個体は、クリの生葉のスウィーピングによって採集した。

アカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi* Distant

2000年6月17日 石川県輪島市鉢伏山(alt. 500m) 1 頭 井村正行 採集

《参考文献》

徳本 洋(1998)カメムシ目キンカメムシ科. 石川県の昆虫: 97. 石川県.

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊2-116-70》

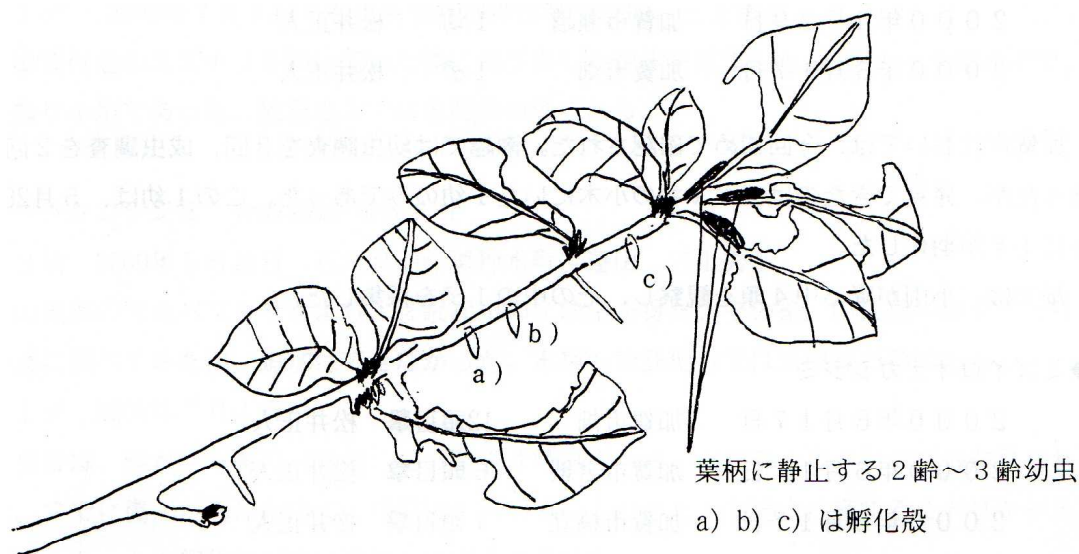
スジボソヤマキチョウの若齢幼虫を観察

勝 海 雅 夫

鳥越村と河内村で、クロウメモドキからスジボソヤマキチョウの若齢幼虫を観察しているので報告する。

1999年 5 月 5 日 石川県石川郡鳥越村河原山 23幼観察 勝海雅夫

1999年 5 月 5 日 石川県石川郡河内村板尾 3幼観察 勝海雅夫



《かつみ まさお 〒522-0043 彦根市小泉町926-2-105》

金沢市内でウスイロコノマチョウを目撃

嵯 峨 井 淳 郎

筆者が借りているマイカー駐車場（金沢市小將町）から勤務先（金沢市大手町）までは、徒歩で10分程度の距離であるが、この通勤途上においてウスイロコノマチョウを目撃したので報告する。

1999年 9 月 9 日 石川県金沢市味噌蔵小学校 1 頭目撃 嵯峨井淳郎

午前 8 時 20 分頃、小学校前の歩道上に静止中の成虫を目撃したが、通勤途上であることから、補虫網を携行しておらず、雌雄の確認はできなかった。同じ道を通勤に利用している同僚が近づいたことから、残念ながら飛び去ってしまった。

1999年の石川県におけるウスイロコノマチョウの記録は、この 1 例だけだと思われる。

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷 3-18-2》

白山における石川県初記録と思われるコウチュウ目 2 種の記録

井村正行・野中 勝

◆コガネコメツキ *Selatosomus puncticollis* (Motschulsky)

1980年 7 月29日	石川郡白峰村白山別当出合	1 頭	野中 勝	採集
1991年 8 月11日	石川郡白峰村白山釈迦林道	1 頭	野中 勝	採集
1999年 7 月20日	石川郡白峰村白山釈迦林道(alt. 1500m)	1 頭	井村正行	採集

本種は、コメツキムシとしては15mm前後と比較的大きく、太めの体形に上翅に緑の金属光沢を持つ、なかなか素敵な虫である。採集は、偶然なのか全て草に止まっていた個体であった。

◆オオナガクチキ *Melandrya niponika* Lewis

1999年 7 月11日	石川郡白峰村白山釈迦林道(alt. 1500m)	1 頭	井村正行	採集
2000年 6 月 3 日	石川郡白峰村白山釈迦林道(alt. 1200m)	1 頭	野中 勝	採集

本種は、全てブナの立ち枯れ木に居たものである。

《参考文献》

高羽正治・他(1998)コウチュウ目. 石川県の昆虫: 102-251. 石川県.

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊2-116-70》

《のなか まさる 〒167-0023 杉並区上井草2-40-7》

石川県におけるミヤタケダルマガムシの記録

野 中 勝

古い記録であるが、ミヤタケダルマガムシ (*Hydraena miyatakei* M. Sato) を以下のよう
に採集しているので報告する。

1992年3月22日 小松市勅使法皇山 1 頭 野中 勝 採集

これまでに石川県からは、本種を含むダルマガムシ科の昆虫の記録は無かったと思われる。当時は石川県の(第1次?)ゲンゴロウブームに火がついた頃のこと、この日は井村正行、松井正人氏らと辰口町でクロゲンゴロウを採集して盛り上がったことを記憶している。

本種を同定し、石川県未記録種であることをご教示くださった札幌の吉富博之氏にお礼申し上げる。

《のなか まさる 〒167-0023 杉並区上井草2-40-7》

酔っぱらう(?) ルリタテハ

日吉芳朗・日吉南賀子

1999年8月5日から23日までの19日間、石川県輪島市高洲山(標高567m)中腹のかつてオオムラサキが生息していた2地点の周辺に、蝶をおびき寄せるためのトラップを設置した(日吉芳朗・日吉南賀子, 1999)。トラップは完熟バナナにブランデーをかけたもので、目的のオオムラサキは誘引されなかったものの、多くの甲虫類、蝶類、蛾類、蜂類が誘われ筆者らの目を楽しませてくれた。

トラップを下げた場所は、通称赤坂(標高320m)および牧場前(標高430m)と呼ばれている地点の周辺で、赤坂3カ所、牧場前5カ所である。それらに誘われた蝶はヤマキマダラヒカゲ、クロヒカゲ、ヒメジャノメ、ルリタテハ、ゴマダラチョウ、アカタテハの6種類で、それぞれの頭数を合計すると以下ようになる。

	赤坂周辺	牧場前周辺
ヤマキマダラヒカゲ	3頭	19頭
クロヒカゲ	5	14
ヒメジャノメ	1	0
ルリタテハ	0	6
ゴマダラチョウ	0	3
アカタテハ	1	0

これよりヤマキマダラヒカゲとクロヒカゲが圧倒的に多いことがわかる。ところが少数派のルリタテハに興味深い行動がみられた。このことに最初に気づいたのは8月9日のことで、牧場前のトラップに誘われてきたルリタテハに近づくと、よたよた(まさにこの語が適当)とトラップから離れ、すぐそばの木の枝に止まった。あのすばしこいルリタテハである。ネットで枝をたたくと、またよたよたと今度は筆者の一人の肩に止まった。肩をゆするとそばの木の葉上に止まり動かない。まさに酔っぱらいが道をふらふらと歩いている体であった。次いで翌日の10日に1頭、16日に1頭、17日に3頭と、それぞれ異なったトラップに誘引されたルリタテハすべてがよく似た行動を示した。酔っぱらうという表現は適切でないかもしれないが、この場合にはうってつけの語と思われる。ルリタテハでもう一つ気づいたことはこの蝶が誘われているトラップには、他の蝶がまったく見当たらないことである。この点については、「樹液をめぐる順位効果(白水隆監修, 1972)」が、ここでも働いているように思えた。

なお、この酔っぱらいの現象は8月11日と17日にヤマキマダラヒカゲそれぞれ1頭でもみられたが、クロヒカゲにはそのようなことはなかった。トラップにかけたブランデーは、ビール、ワイン、日本酒よりもアルコール度が高いことは確かであるが、そのためである

かどうかをも含めて、今後の検討課題の一つと考えている。

《参考文献》

日吉芳朗, 日吉南賀子 (1999) 輪島市高洲山周辺でのスギタニルリシジミとオオムラサキ
探索の顛末記. 翔 (141) : 3-6.

白水隆監修 (1972) 原色日本昆虫生態図鑑 Ⅲチョウ編 : 79. 保育社.

《ひよしよしろう・ひよしながこ 〒928-0001 輪島市河井町 1 部64-1》

1999年沖縄石垣西表採集記 (その1)

笹川 忠志

会社勤続20周年記念ということで、リフレッシュ休暇を取り「沖縄、石垣、西表」へ12日間の採集旅行へ行ってきた。仲々取得できない休暇を、「南の島でネットを振る事に使う」これほど至福の時ではなかった。

■10月1日 小松空港発JTA031便にて沖縄へ。JTAへは久しぶりの搭乗である。以前、石垣島への直行便や沖縄石垣周辺の乗り継ぎに良く使用したのであるが、小松空港からの直行便に関しては、いつかは乗る日が来ると金沢へ赴任してからずーと思っていた。8時35分、駐機場を離れ、ランディングバーンを一気に加速し一路那覇へとフライトが開始された。頭の中は、誰にも邪魔されず誰にも気を使わず、ネットを振れる喜びで一杯であった。10月1日から4日は沖縄本島である。いろいろな事を考えながら採集に思いを巡らしている内に、奄美大島を南下し沖縄本島の北側を通過し那覇空港に回り込んだ。

空港に降りて驚嘆したのが、空港の変貌ぶりである。「那覇空港はスゴク変わりましたよ」とは聞いていたが、予想以上のものであった。レンタカーを借用し、一路北部に向かったが、秋雨前線の影響で沖縄本島も余り天気良くない。特に北部の山地は、南部が晴天でも雨が降ったりするものだ。終点の許田ICで沖縄道を下り、今度はひたすらR58を北上する。奥間ビーチの看板が見え出す頃から、スコールになっているところと晴れているところが肉眼でも判明できる様になってきた。沖縄本島にいるのにネットさえ振れないというジレンマが頂点に達した時、大宜味村喜如嘉(きじょか)の集落の上空をツマベニチョウが舞っていた。ガマンできずにこの集落の傍でネットを振ってみようと思い車を止めた。沖縄での初ネットインは何か？と思ったらカバマダラであった。唯、後で知ったのだが、現在沖縄ではカバマダラは急速に勢力を衰退させている。集落の中を赤い60センチ口径のメッシュネットを持ったオジサンがフラフラしていると、さすがにオバチャンやオジチャンは「どこから来た？チョウ採集か？へー元気だね」と半ばあきれ顔であった。確かに32度はある気温の中で、長袖に釣り用のジャケット（これは絶対重宝しますぞ！皆さん絶対購入しましょう）を着て蝶を追いかけて廻していれば、関心が集まるだろう。この集落はア

ゲハ類が非常に多く、白いナガサキアゲハのメスがかなり採集できるのではないかと思った。また、この様な集落にさえツمامラサキマダラが居るのだなあと考えたのである。ネットと沖縄の感触を肌で感じた後、今日の目的地である与那へ向かった。与那の目的はこのところ姿を消した「台湾ツバメシジミ沖縄亜種」である。辺土名（へんとな）を越えて与那川を渡り即右折し、安田方面へカーブミラーを目印に少々走り左折、いよいよダートの道である。少々登ると小屋（廃屋）があり、そこに車を止めて徒歩。外に出ると湿度と温度が大変高く、歩くのが嫌になる。勇気を持って歩き始めると、次から次へとツمامラサキマダラが飛び出す。「やっぱりすごい数になっているのだろうか」と思いながら良い個体をネットしながら歩き続けた。途中台湾ツバメシジミの食草であるシバハギが多く自生しているにもかかわらず、成虫も幼虫もないけりゃ卵もない。やはりもう生息していないのかも知れない。林道の脇のセンダングサや、種々の植物を観察しながら歩いて行くと、見慣れた飛びかたの小さいジャノメを発見した。「Ypthimaだ。riukianaに間違いない」綺麗なリュウキュウウラナミジャノメであった。マサキもヤエヤマも同じであるが、本土のヒメウラナミジャノメとは少々違っていて、ある特定のエリアに出現しヒメウラナミの様に林道のどこでも居る様な事は決っていないのである。6頭程採集したが、鮮度はまちまちであった。良い林道であるが、台湾ツバメシジミがいらないとなると、つまらない林道になってしまった。ツمامラサキマダラは依然と多い。初日はこの様な状況で、余り天候には恵まれず、旅の疲れもあって宿泊場所へと急いだ。辺土名の「ホテルみやしろ」に宿泊した。北部の採集には「ホテルみやしろ」が良く、1ヶ月前から予約開始なので9月1日に予約を入れていた。少々展翅をし、フロで汗を流して就寝してしまった。

10月1日 沖縄県国頭郡大宜味村喜如嘉

オキナワビロードセセリ	2頭	リュウキュウムラサキ(台湾型)	1♀
モンキアゲハ	1♂	イシガケチョウ	5頭
ナガサキアゲハ	1♂2♀	アオタテハモドキ	2♂1♀
モンキアゲハ	1♀	カバマダラ	2♂
ナミエシロチョウ	1♀	ツمامラサキマダラ	2♀
ウスキシロチョウ	1♂	リュウキュウアサギマダラ	1♂
ウラナミシロチョウ	2♂	ウスイロコノマチョウ	1♂
タテハモドキ(1♀秋型)	2♂1♀		

10月1日 沖縄県国頭郡国頭村与那

ナガサキアゲハ	2♀	リュウキュウヒメジャノメ	5頭
シロオビアゲハ(ベニモンタイプ)	1♀	ルリタテハ	6♂2♀
リュウキュウウラナミジャノメ	8頭	ツمامラサキマダラ	8♂4♀

■10月2日 今日は早朝再度「与那」に行って「饒波」に行く予定にしていた。朝食を済ませ、与那に向かったが天候がすぐれないのと早朝なので余り蝶がいないので饒波に転戦した。饒波川に沿って林道ができているのであるが昔はこの道もダートだったのであろう。R58から辺土名高校の脇を左折し、前田原の集落を越えて里山に入っていくのである。前田原にはバナナセセリが生息しているバナナ畑が多いのであるが、実際どうなのだろうか。夕刻に飛翔するが、それまで粘る事ができなかった。但し、幼虫の「巢」らしきものは発見できた。アオバセセリ属でもテツイロは必死で追っかけても価値はあるが、どうもバナナセセリは今ひとつ乗り気がしない。集落を越えるとミカン畑やバナナ畑が続く。生垣にハイビスカスが植えてあり、赤い花を咲かせていた。朝早いのにツマベニチョウはガンガン飛翔している。南の島で「Hebomoiaを採集するのもダイナミックで良い」とは皆の言うところである。一定のインターバルでやって来るのである。豪快に飛翔してきたと思うとサーッと下降し、ハイビスカスに潜り込むように吸蜜している。ツマベニチョウのあのギャップは何なのであろうか。それが魅力か。10頭程採集したであろうか。そろそろ吸蜜に来ないので奥へ行く。相変わらずツمامラサキマダラが「ふわーっふわー」結局23♂11♀を採集する。ツマベニのポイントは余りオモシロくないので、昨日の集落に行ってみる事にする。やはりアゲハは多く、特にナガサキアゲハの白い綺麗なメスが多かった。7♂9♀をゲットした。このころからシロオビアゲハのメスのベニモンタイプが多いのに気が付き、不思議であった。その後比地大滝に転戦し、リュウキュウウラボシシジミを探索に行ったのであるが、ここの大滝までの遊歩道が、実は今年から料金支払いの遊歩道になってしまったらしい。上の林道（舗装）をちょっと行って見たが、例の如くツمامラサキマダラが「ふわーふわー」と、至る所ツمامラサキマダラだらけの北部だと思った。しかし、この程度でおどろいたりため息を付いてはいけない事は、未だ知るよしもなかった。

10月2日 沖縄県国頭郡大宜味村饒波

ツマベニチョウ	8♂2♀	ナミエシロチョウ	2♀
ウスキシロチョウ	6♂2♀		

10月2日 沖縄県国頭郡国頭村辺土名

ツマベニチョウ	18♂5♀	ウスイロコノマチョウ	6頭
---------	-------	------------	----

10月2日 沖縄県国頭郡国頭村比地川林道

ツمامラサキマダラ	28♂19♀	リュウキュウムラサキ(大陸型)	1♀
------------	--------	-----------------	----

■10月3日 朝食後、再び与那を覗いたがタイワンツバメはいない。今日の目的は真木屋林道。数々の伝説の真木屋林道、今回も良い結果があるかと思い車を走らせ、真木屋を過ぎ、細い道を林道に向かっていったが、林道の基点で思わぬ光景となった。ダム建設工事で、林道が封鎖され将来は水没と言う事であった。林道への侵入をあきらめ、採集欲を満

たす為に海洋公園へ向かう。海洋公園の中でもネットは振れるが、作業の人や観光客が居る中で振るには勇気がいる。しかし、カバマダラが多いので少々ゲットした。更にベニモンアゲハが多く、これがシロオビアゲハのベニモンタイプのメスの割合を、ノーマルタイプに対して2割弱に拡大したのではないかと確信した程であった。海洋公園で、カバマダラやベニモンアゲハをチョコチョコ採集していたら、なんと海洋公園の中にもツマムラサキマダラは「ふわーふわー」とたくさん居た。もうどうなっているのだろうか。ウスキシロやアゲハ、オオゴマダラ等々を見ていてもしょうがない。海洋公園の南ゲートを出て、R449を本部大橋方向に南下した。国道の両脇に赤いハイビスカス、白い大きなチョウが戯れている。「ツマベニが結構いるな。よし一丁採集してやるか」ギラキラ太陽の照り返しの激しい国道で、赤いネットを振るオジサン。もの凄い格好悪い。でもそんなこんなは全く意識せず、ハイビスカスの歩道を行ったり来たりする私でした。

10月3日 沖縄県国頭郡本部町海洋記念公園南ゲート内部

ベニモンアゲハ	7 ♀	シロオビアゲハ(ベニモン型) 4 ♀
---------	-----	--------------------

10月3日 沖縄県国頭郡本部町中原

ツマベニチョウ	20♂ 9 ♀	シロオビアゲハ(ベニモン型) 2 ♀
---------	---------	--------------------

ベニモンアゲハ	2 ♂	シロオビアゲハ(ノーマル型) 3 ♂ 1 ♀
---------	-----	------------------------

■10月4日 今日は、石垣島へ移動する日であるが、タイワンツバメシジミ、バナナセセリは取りこぼしてしまった。バナナセセリは次のチャレンジでも良いのではないかと自分で納得し、朝早く朝食も食わずに那覇に向かう。那覇インターまでは全く問題ないが、那覇市内の交通渋滞はさすがに有名なだけはあり、那覇インターから末吉（安里の交差点までがものすごい渋滞）まで1時間以上もかかってしまった。金沢市内の朝の渋滞に匹敵する凄さである。かつては手ごろな採集場所であり、ホリイコシジミの大発生で注目され沖縄ビギナーのメッカであった末吉公園も、現在では時間のツナギの採集にさえ来ない。この日も9時半頃に到着したのだが、誰もいなかった。ツマベニチョウ、ウスキシロ、ナミエシロ、ツマグロヒョウモン、アマミウラナミ等々が居た。また、北部でも確認したアオタテハモドキが数頭いた。更に、ルリウラナミシジミは「本島に土着していない」事になっているのだが、末吉公園だけでなく色々な所で発見した。もはや土着種になったのだろうか。アオタテハモドキの綺麗なオスを三角紙に取り込んでいる時に、来週帰る日あたりに、アオタテハモドキの新鮮な個体はかなり発生するのではないかとと思われる。つづく。

10月4日 沖縄県那覇市首里末吉町末吉公園

ルリウラナミシジミ	3 ♂ 1 ♀	アオタテハモドキ	2 ♂ 1 ♀
ウスキシロチョウ	2 ♂	ツマグロヒョウモン	1 ♂ 1 ♀

《ささがわ ただし 〒167-0031 杉並区本天沼1-2-5》

石川県内の環境庁レッドデータリスト2000掲載種

NO	目名	科名	種名	カテゴリー	備考
1	トンボ目	トンボ科	マダラニトンボ	絶滅危惧Ⅰ類	小松市
2	バッタ目	コオロギ科	材木コオロギ	情報不足	金沢市
3	カメシ目	アメンボ科	エサアメンボ	準絶滅危惧	河北潟
4	カメシ目	コイシ科	コイシ	準絶滅危惧	七尾市
5	カメシ目	コイシ科	タガメ	絶滅危惧Ⅱ類	最近の記録は無い
6	カメシ目	ミスミシ科	ホケミスミシ	準絶滅危惧	羽咋市、輪島市、柳田村
7	カメシ目	サガメ科	ゴミサガサガメ	絶滅危惧Ⅱ類	尾口村
8	コウチュウ目	ハミョウ科	イカリモンハミョウ	絶滅危惧Ⅰ類	羽咋市、志賀町
9	コウチュウ目	ハミョウ科	カラハミョウ	絶滅危惧Ⅱ類	七塚町
10	コウチュウ目	ハミョウ科	ハラビロハミョウ	絶滅危惧Ⅱ類	羽咋市、志賀町など
11	コウチュウ目	オサムシ科	オヒョウタンゴミムシ	準絶滅危惧	小松市、内灘町など
12	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	準絶滅危惧	金沢市、輪島市など
13	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	シャブゲンゴロウトビキ	絶滅危惧Ⅰ類	金沢市、輪島市など
14	コウチュウ目	ホガミシ科	チュウブホガミシ	準絶滅危惧	加賀市
15	コウチュウ目	クワガタムシ科	オクワガタ	準絶滅危惧	金沢市
16	コウチュウ目	コガネムシ科	オチャイロハナムグリ	準絶滅危惧	白峰村、尾口村など
17	コウチュウ目	ハムシ科	オカリハムシ	情報不足	穴水町、内浦町など
18	ハチ目	ナギナタハチ科	トガシナギナタハチ	情報不足	吉野谷村
19	ハチ目	アサハチ科	カラアワフキハチ	情報不足	根上町
20	ハチ目	アサハチ科	キリシタガハチトビキ	情報不足	根上町、羽咋市
21	ハチ目	アサハチ科	ニッポンナタガハチ	情報不足	白峰村、津幡町
22	ハエ目	イハエ科	イヌマトイ	絶滅危惧Ⅰ類	最近の記録は無い
23	ハエ目	クロハエ科	カエルキンハエ	情報不足	最近の記録は無い
24	ハエ目	コハエ科	ゴヘイニカハエ	絶滅危惧Ⅱ類	最近の記録は無い
25	トビケラ目	ナガレトビケラ科	オナガレトビケラ	準絶滅危惧	白山
26	チョウ目	セリチョウ科	ギンイチョンジセリ	準絶滅危惧	鹿島町
27	チョウ目	セリチョウ科	ホシチャバセリ	絶滅危惧Ⅱ類	山中町、小松市
28	チョウ目	アゲハチョウ科	キブチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	小松市、金沢市など
29	チョウ目	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	絶滅危惧Ⅱ類	迷蝶
30	チョウ目	ジミチョウ科	アサマジミ	絶滅危惧Ⅱ類	尾口村、吉野谷村など
31	チョウ目	ジミチョウ科	クロジミ	絶滅危惧Ⅰ類	金沢市
32	チョウ目	ジミチョウ科	ゴマジミ	絶滅危惧Ⅱ類	金沢市以南
33	チョウ目	ジミチョウ科	ヒメジミ	準絶滅危惧	白山
34	チョウ目	ジミチョウ科	ミヤマジミ	絶滅危惧Ⅱ類	手取川河川敷
35	チョウ目	タテハチョウ科	オムラサキ	準絶滅危惧	加賀地方の山地など
36	チョウ目	ジャノメチョウ科	クモベコヒカゲ	準絶滅危惧	白山高山帯
37	チョウ目	ジャノメチョウ科	ベコヒカゲ	準絶滅危惧	白山高山帯

ゼフ竿が乱舞する倉ヶ岳

今年はゼフが好調のよう
で、市街地から近くて量種共
に豊富な倉ヶ岳は、休日とも
なるとゼフ竿が乱舞。

キゴ山のウラナミアカジミ

ゼフの撮影にと毎年キゴ山
へ通っている竹谷氏、ウラナ
ミは九十三年から細々と観察
されるようになったが、九十
七年からは複数が観察される
ようになった。そして今年は、
ウラナミだらけらしい。

どこを向いても蝶ばかり

河原山のオオムラサキポイ
ント、オオムラサキの目線を
ちよつと上げるとオナガシジ
ミが目に入る。足下に目線を
落とせばミヤマカラスシジミ
と、どちらを見ても蝶ばかり。

二十世紀最後の記念原稿

今世紀の翔発行は残すところ、後二冊。二十世紀最後の
記念に、原稿を書いてみては
いかがでしょう。

台湾から鹿児島一二〇キロ

台湾でマーキングされたア
サギマダラが薩摩半島喜入で
採集された。台湾を含めた
マーキング調査はなかなか実
現せず、今年になって初めて
実現したが、その矢先の画期
的な再捕獲。この調子で行け
ば、秋の南下個体も台湾で採
集される可能性が高い。

市町村単位の蝶リスト

金沢市の蝶は百八種、小松
市の蝶は九十七種と、県内四
十一市町村全てから蝶が記録
されているが、七塚町二種、根
上町三種、美川町四種、野々市
町五種はあまりにも少ない。

高山蝶を求めてロッキーへ出発

ニューヨークの久慈氏、こ
の夏一気に高山蝶をゲットし
ようとロッキーへ向かった。
コリアス6種、エレビア3種、
オエネイス5種などなど、採
集予想種リストをこれ見よが
しと蝶談会ホームページに掲
載している。

オオルリとカラフトを求めて

細沼氏、変則勤務で体長不
良にもかかわらず、当初の予
定を完遂すべく、北海道へ向
かった。情報はガッチリ固め
たが、体力には若干の不安が。

八月はクマゼミのシーズン

昨年十月にオープンした石
川動物園、園内に植えられた
木々は太平洋側から取り寄せ
たと思われ、根の周りにはク
マゼミがついていた可能性が
高い。今夏は一回目の合唱
シーズン、午前中はクマゼミ
が鳴いているかも知れない。

例会の記録

六月一日(木)城南管工二
階にて八時から開催。

今回の話題は、富沢氏が海
岸で発見した新種のハマゴウ
ノメイガ。発見のいきさつか
ら、食草の発見、手こずった
越冬個体の発見等々、足かけ
四年に及ぶ調査の話だった。
その他の話題は、シャープ
の幼虫をつまもうとした秋篠

殿下、昆虫館で能登半島昆虫
調査、セアカはまたしても採
れず、コルリはトチノキの幼
木から等々。

参加は、中西、松井、富沢、
吉村、井村、指田、野中(T
EL参加)の七人。

例会の記録

七月六日(木)城南管工二
階にて八時から開催。

今年はゼフが豊作で、新産
地発見が相次いでいる。なか
でも宝達のウラクロとウラム
スジは一級品。奥能登でジョ
ウザンがまとまって採れた
り、ウラナミアカやミズイロ
オナガの新産地も出ている。

その他の話題では、動き出
した能登調査、俵でイッシキ
キモン、河原山のオオムラサ
キポイント、アカヘリミドリ
タマは行列待ち、ヤマクロシ
ジミの生息環境、石が刺さる
林道で三本パンク等々。

参加は、吉村、生田、山岸、
中西、松井、富沢、井村、指
田の八人。

【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃばの動き

中宮猿軍団がお出迎え
嵯峨井氏、中宮温泉付近で
河原に降りようとすると、
「ギー」と威嚇の声。見れば
ひととき大きなボス猿が睨ん
でいる。「ギーギー」とわめ
かれては熊より始末が悪く、
退散するしか無かった。

ジャコウアゲハは来なかった
月刊むし三四九号に、ジャ
コウアゲハの幼虫がいるウマ
ノズクサには同成虫が引き
寄せられるとあった。早速、
庭の食草に幼虫を放してみた
が、いつまで経っても成虫は
やってこない。

手取川を下るアサギマダラ
六月上旬、この時期はまだ
まだ飛来アサギのシーズン
で、たくさんのアサギに会う
のはなかなか難しい。ところ

が、嵯峨井氏によって一時間
に十二頭前後のアサギが手取
川を下って行くのが観察され
た。これって可成りな数で、
六月のマーキングポイントに
なるかも知れない。

アイヌハンミョウ各地で観察
県内でも簡単に観察出きる
ことから話が広まり、今では
アッチコッチの河原で簡単に
観察されている。この観察ポ
イント、井村会長自ら秋田氏
の教えを仰いでいる。

インターネットに接続したが
いち早くパソコンを購入し
た井村会長であったが、時期
尚早とネット接続は控えてい
た。最近ISDNを引き込み
ネットに接続はしたもの、
接続パソコンは息子の部屋。
これで使えるのだろうか。

市町村集めにトライしよう
石川四十一市町村全てか
ら、同一種を記録するゲーム。
種は何でも良いが、県内全
ての市町村から記録するとな
れば、かなりの普通種になり、
気力がないと達成できない。
ちなみに最多記録は、キチ
ヨウの三十三市町村。

日本海側で大陸産害虫が大発生
六月中旬、真つ黒な幼虫が
市街地の叢を埋め尽くしてい
た。大陸から風に乗ってア
ワヨトウが大挙飛来し大量産卵
に及んだ結果とかで、図鑑に
も載っていない真つ黒幼虫は
アワヨトウの群生タイプ。ア
ワヨトウばっかりで蝶は飛ん
でこなかったのだろうか。

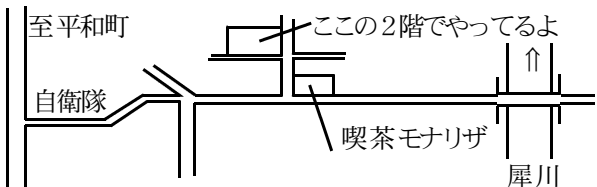
能登から十番目のゼフィルス
能登九番目のゼフに喜んで
いたら、立て続けに十番目の
ゼフが出た。どちらも宝達山
で、三上氏によるものだが、
氏は八番から三種連続で、も
のにしている。

翔 145号

Tobu 2000年8月1日発行
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (145号)

三上秀彦：押水町宝達山で採集したミドリシジミ類	1
松井正人：加賀市で観察したゼフィルス2種	2
井村正行：アカスジキンカメムシの能登鉢伏山における採集記録	2
勝海雅夫：スジボソヤマキチョウの若齢幼虫を観察	3
嵯峨井淳郎：金沢市内でウスイロコノマチョウを目撃	3
井村正行・野中 勝：白山における石川県初記録と思われる コウチュウ目2種の記録	4
野中 勝：石川県におけるミヤタケダルマガムシの記録	4
日吉芳朗・日吉南賀子：酔っぱらう(?)ルリタテハ	5
笹川忠志：1999年沖縄石垣西表採集記(その1)	6
編集部：石川県内の環境庁レッドデータリスト2000掲載種	10
編集部：会員の動き・しゃばの動き	12